

カニの橋を渡って…

1

お元気ですか。くしゃみをしている間に3月になりました。最近^{さい近}は気温も上がって、過ごしやすくなりましたよ。

春は草花^{くさな}が笑^{わら}うように咲くので、マヤーオバはこれからの季節^{きせつ}が楽しみだと話^{はな}していました。

この時期^{このとき}、島には気分屋^{きふんや}の風が吹きます。東から吹いたと思ったら北、北から吹いたと思ったら西……。くると風向きが変わるので、渡り鳥^{わたりどり}たちが目を回したり、船が潮に流されたりするんです。毎年^{まいとし}、迷子^{まいご}になった鳥や船が風の島にやって来るんです。

実はこの前^{じつ}、100人のお客^{きやく}さんを乗せたパーティー船^{せん}が島の近くで座礁^{ざせう}したんです。夜に大きな音^{おと}が鳴ったので西の浜^{はま}まで行くと、火花^{はなび}が上がっていたんです。キレイだなーなんてのんきに見ていたら、船大工^{ふねざいく}をしているカニのマッカンが異変^{いへん}に気付いて、弟たちと救助^{きうすけ}に向かったんです……。

2

客船^{きやくせん}リッチリッチ号では、船上パーティーが開かれていました。豪華な料理^{りょうり}が並び、ジャズバンドが軽快な音楽^{おんがく}を奏^{そう}でる中、ドレスやタキシードを着た男女^{おとこ}がぜいたくな時間を過ごしていました。

しかし、その頃^{ころ}、操舵室^{そうたうしつ}では事件^{じけん}が起きていました。船長^{せんちやう}がシャンパンを飲み過ぎて泥酔^{でいすい}してしまったせいで、怠け者^{なまけもの}の副船長^{ふくせんちやう}が操舵輪^{そうたうりん}を握っていたのです。風の島の近海^{きんかい}に差しかかると、風向きがくると変わり、船の操縦^{そうじゆう}がうまくいきません。そのうち、船は流されて……ドーン!!! 大きな岩^{いわ}にぶつかって、座礁^{ざせう}してしまいました。

副船長^{ふくせんちやう}は船長^{せんちやう}の頬^ほをバシバシたたきましたが、イビキをかいてばかりで起きる気配^{けいはい}がありません。マズイぞ！ これはマズイ!! クビになることを恐れた副船長^{ふくせんちやう}は、甲板^{かんぱん}に出て、客^{きやく}たちにウソをつきました。

「皆さん、安心して下さい！ これも演出^{えんしゆつ}の一つです！ ……」

さあ、ビンゴ大会が始まりますよ!!」

スタッフにビンゴ大会を任せた副船長^{ふくせんちやう}は、救命ボート^{きうめいぶーと}を探し回りました。しかし、出航前^{しゅくかうぜん}に、オシャレじゃないからという理由^{りゆうゆ}で撤去^{てつそ}したことを思い出しました。副船長^{ふくせんちやう}は泣きながら、救難信号^{きうなんしごう}弾^{だん}の代わりに花火^{はなび}を打ち上げました。

3

西の空に上がる花火^{はなび}を、マッカンにはらみつけるように見ていました。

「あの花火…… 10 秒に 1 回の間隔^{かんかく}で上がっているな。救難信号^{きうなんしごう}かもしれない。ハッサン、マネキ、俺^{おれ}たちの出番^{でうばん}だぞ!!」

「あれは金持ち船^{かねもちせん}のリッチリッチ号^{ごう}ですぞ。放^{はな}っておきましようよ」

次男^{じなん}のハッサンに、三男^{さんなん}のマネキが同意^{どうい}しました。

「そうですよ、兄貴^{あにさま}。それに、今日は風が強くて波^{なみ}が荒^{あら}いから危険^{きけん}ですよ」

「あの辺^{あた}りは俺^{おれ}たちの庭^{にわ}じゃねーか！ 誰^{だれ}も見殺^{みころ}しにはできねえ！ 何かあったらカニ笛^{かにふえ}で知らせるから、仲間^{なか}たちに知らせておいてくれ!!」

マッカンはカニ走り^{かにはしり}でリッチリッチ号^{ごう}へ向かいました。ぴょんぴょんと岩^{いわ}を伝^{つた}い、カニ泳^{かにおよ}ぎで船^{ふね}に着くと、1周^{じしゅう}して状況を調べました。すると、リッチリッチ号^{ごう}がボロ船^{ぶろせん}にペンキを塗^ぬってキレイに見せかけていること、そして、船底^{ふねぞこ}の亀裂^{きれつ}からごぼごぼと海水^{かいすい}が入^{はい}っていることがわかりました。

「おーい！ 船^{ふね}に穴^{あな}が空^あいているぞ！ このままだと沈没^{しんぼつ}するぞ!!」

マッカンは叫^{きけ}びましたが、客^{きやく}たちはビンゴに夢中^{むちゆう}で真剣^{しんけん}に聞いてくれません。マッカンは力^{ちから}いっぱいカニ笛^{かにふえ}を吹いて、弟^{あとう}たちに応援^{えんたの}を頼^{たの}みました。



4

ビンゴ大会^{びんごたいかい}が盛り上がる中、グガガガ……と船^{ふね}が傾^{かたむ}きはじめました。グラスや皿^わが割^われ、客^{きやく}たちは転^{ころ}び、船^{ふね}は悲鳴^{ひめい}に包^{つつ}まれました。パニックに陥^{おちい}った客^{きやく}たちは船長^{せんちやう}と副船長^{ふくせんちやう}を探^{さが}しましたが、操舵室^{そうたうしつ}にはかぎがかかっていて、ドアをたたいても返事^{へんじ}がありません。

そこへ、ハッサンとマネキが到着^{とうちやく}しました。後ろ^{うしろ}には、何千何万^{なんぜんなんまん}という風の島^{かぜのしま}のカニ^{かに}たちの姿^{すがた}があります。

「仲間^{なか}たちよ、橋^{はし}を架^かけるぞ！ 俺^{おれ}たちの団結^{だんけつ}力^{りき}を見せるんだ!!」

マッカンのかけ声^{かけこゑ}で、カニ^{かに}たちはがっつりと身^みを寄せ合^よい、風の島^{かぜのしま}へと続^{つづ}く橋^{はし}を架^かけていきました。

「船^{ふね}から下^{くだ}りて、島^{しま}へ渡るんだ!!」

5

すべての客^{きやく}たちが島^{しま}に避難^{ひなん}すると、副船長^{ふくせんちやう}は汗^{あせ}を拭^ふきながら言^いいました。

「いやあ、皆さん、なかなかのサプライズだったでしょう？ 私が用意^{ようい}したカニの橋^{はし}もスリリングだったんじゃないですか？」

それを聞いて、船^{ふね}のスタッフが声^{こゑ}を張り上げました。

「だまされないで！ 副船長^{ふくせんちやう}の話^{はなし}は大ウソです！ 船^{ふね}は座礁^{ざせう}して、とても危険^{きけん}な状況^{じきやう}にあったんです！ 船長^{せんちやう}はべろべろに酔^よっぱらっていたし、副船長^{ふくせんちやう}はずっと操舵室^{そうたうしつ}に閉^とじこもっていました！ 皆さんが助^{たす}かったのは、風の島^{かぜのしま}のカニ^{かに}たちのおかげです!!」

客^{きやく}たちは船長^{せんちやう}と副船長^{ふくせんちやう}を取り囲^{かこ}むと、ロープでぐるぐる巻^まきにして、怒^{いか}りと不満^{ふまん}をぶつけました。そして、体を張^かって橋^{はし}を架^かけたカニ^{かに}たちに感謝^{かんしゃ}の言葉^{ことば}を伝^{つた}えました。マッカンは大仕事^{おおしごと}を成^なし遂^すげた仲間^{なか}たちをねぎらったあと、船長^{せんちやう}と副船長^{ふくせんちやう}の前に進^{すす}み出^でました。

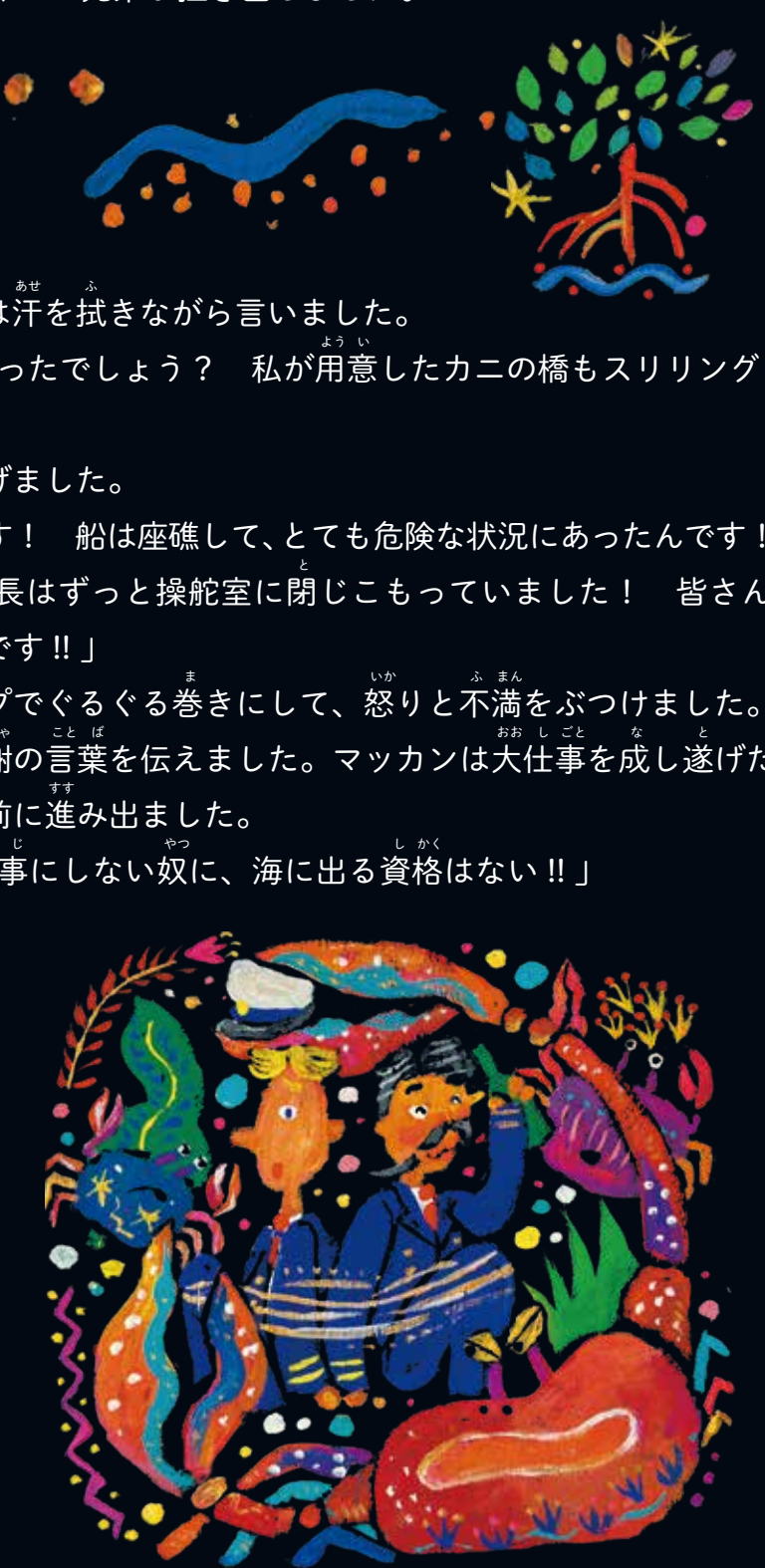
「お前^{おまえ}ら、海^{うみ}をなめるんじゃないー！ 船^{ふね}を大事^{だいじ}にしない奴^{やつ}に、海^{うみ}に出^でる資格^{しきかく}はない!!」

そう言って、副船長^{ふくせんちやう}の帽子^{ぼうし}を取り上げ、船長^{せんちやう}の偉^{おほ}そうなヒゲをチョキチョキと切り落^おとしました。

「仲間^{なか}たち！ 今夜^{こんや}はニセモノの船長^{せんちやう}と副船長^{ふくせんちやう}にごちそうしてもらどうぞ!!」

喜び^{よろこ}のあまり、カニ^{かに}たちはブクブクブクーっ^{あわ}と泡^{あわ}を飛ばしました。そして、元船長^{もとせんちやう}と元副船長^{もとふくせんちやう}のお尻^{しり}をつつついて、漂^{ひよう}着^{ちやく}したリッチリッチ号^{ごう}の食べ物^たや酒^{さけ}を拾^{ひろ}わせました。

泡^{あわ}の森^{もり}に姿^{すがた}を変^かえた浜^{はま}で、客^{きやく}たちを交^{まじ}えたドンチャン騒^{さわ}ぎは救助船^{きうすけせん}が来るまで続^{つづ}きました。



風の名 二月風廻り (ニフガチカジマエ)

この時期^{このとき}吹^ふく風^{かぜ}のことで、天気^{てんき}が急変^{きゅうへん}して海^{うみ}が荒^{あら}れるため、漁師^{りくし}たちから恐^{おそ}れられてきたよ。昔^{むかし}の人^{ひと}は、カニ^{かに}の巣穴^{すけ}の向^{むか}きを見^みて、二月風廻^{ふにふかきまへ}りが去^さったあと海^{うみ}に出^でていたそうなんだ。

